

【平成30年度策定分】

基本目標	政策	重要業績評価指標(KPI)	基準値 (29年度実績 値)	30年度実績値	令和元年度実 績値	令和2年度実 績	令和3年度実 績	前年比	中間目標値 (令和元 年度)	目標値 (令和4年度)	単位	実績の分析(実績の理由、要因)	事業実施効果	今後の見通し	担当課
親子がいきいき暮らせるまち	子育て家庭の支援	この地域で今後も子育てしていきたいと答えた割合		91.8	91.2	92.7	93.6	94.1	0.5	93.0	94.2 %	この地域で今後も子育てしていきたいと答えた割合が経年で増加している	こんには赤ちゃん訪問の早期介入や、母乳相談、産婦健診・産後ケア事業の他、個別の妊娠期の教室開催などにより、妊娠期からの相談の機会を増加しサポート体制を強化。	妊娠期から継続的な支援体制の強化を継続的に実施	保健センター
		保育所等利用待機児童数		11	12	21	17	8	△ 9.0	0	0 人	待機児童のほとんどが田原地域の児童であるため、従来より実施している、年齢定員を超えた弾力的な受入れや田原地域における他園の送迎バスの運行を継続したほか、令和2年度に田原地域の園内にあったつどいの広場をグリーンホール田原内に移転させ、結果として生じる園の空いたスペースを活用して1歳児の受入れを令和3年度から拡大した。また、令和3年度に新たな保育士等確保策を創設し、保育士確保により安定的な児童の受入れに繋がるよう努めた。	年齢定員を超えた弾力的な受入れにより、保育需要に対応し、子育て支援を行った。	令和4年4月の待機児童数は4人であり、前年同月比2人増となっており、待機児童の解消には繋がっていない状況である。令和3年度に実施している内容を継続して令和4年度も行う。	子ども政策課
		ふれあい教室の待機児童数		12	4	20	13	24	11.0	0	0 人	忍ヶ丘ふれあい教室で想定よりも1年生の申込みが多く、4年生以上が待機となってしまった。その他の教室では、年度当初入室の申込期間が終了して以後に申込みがあった児童で、期間内に申込みのあった児童については、定員を超える弾力的な受け入れも行いながら、全員入室ができていく。	左記の弾力的な受け入れも行いながら、就労家庭の安心安全な子育てに対する支援を引き続き行った。また、子育て総合支援センターと連携し、見守りが必要な児童の様子等の情報交換も実施した。	今後、学校の児童数の減少が見込まれる中、就労家庭のニーズ等も踏まえ、待機児童の推移を見つつ、定員や施設の増設等の必要性について見極めていく。	青少年育成課
	質の高い教育の推進	話し合う活動を通じて、考えを深めたり、広げたりすることができるかと答えた児童・生徒の割合		63.9	82.1	83.8	83.7	80.5	△ 3.2	78.0	80.0 %	コロナ禍で、教育活動における「対話的な」活動の制限が続いている。対話的な活動を通して、自らの考えを相手に伝え、他者の考えを学びとり、広い考えを持つことができ、他者の考えと自分の考えを比較することで、考えを深めることができる。対話的な活動の制限が、肯定的な回答に影響を与えていると考える。	新学習指導要領に示された「育成すべき資質・能力」の伸長には、話し合い、考えを広げることができたという児童生徒の実感是最重要と考える。児童の主体的に学習する態度の育成に大きくつながった。	本実績や経年の変化を学校と共有するとともに、市域における、タブレットPCを活用した協働的な学び等の好事例を発信し、改善につながる取組みを推進する。	学校教育課
		学校の授業時間以外に1日あたりの学習時間が30分未満と答えた児童・生徒の割合		20.5	20.2	22.9	21.3	23.6	2.3	16.7	10.0 %	家庭学習の手引きを学校で作成するなど、各校改善に向けPDCAサイクルのつくり学習習慣の定着をめざし取組みを進めているが、令和3年度実績は、令和2年度実績より30分未満の児童生徒数が増加するなど、定着という状況には至っていない。	学習の定着に向けて取組みを進めることにより、学習習慣が身に付いた児童生徒も増えるなど成果もあるが、一方、未定着である割合が減少しないことが課題である。計画的に学習する力を家庭、地域と連携して育成していく。	各校で、確かな学びを育む学校づくりの一環として、家庭学習の取組みに力を入れている。今後とも、学校に指導助言をし、より良い取組みを推進していく。	学校教育課
		中学3年生におけるCEFR A1レベル相当(※)以上を取得している生徒の割合		26.9	21.6	26.3	26.3	42.7	16.4	30.0	35.0 %	令和元年に達成すべきであった中間目標値に2年遅れで到達した。毎年の上昇は少しずつではあるが、担当者会やALTの活用等の英語教育の推進に係る取組みが結果につながってきたと考える。	本実績だけでなく、市で委託し実施している英語力検定試験でも、本事業により、英語力の育成が進んでいることが分かった。	引き続き、本市教職員とALTの連携、学識などの活用を通して、授業力向上のための研究、研修を深めていく。	学校教育課
	「働きたい」を応援するまち	地域経済の好循環の創出	創業支援に基づく新規起業数(累計)	-	17	36	55	59	4.0	3	8 件	令和3年度は、創業に興味があるものを対象とした創業カフェを実施し、創業に向けて商工会等関係機関との連携を図った。参加者は14人であったが、創業時期は個々により異なることなどから、年度内受講者と創業者は一致はしないが、創業者数としては2名となった。加えて地域事業者育成事業(ビジネスコンテスト)による2件の創業があった。	全3回の創業カフェやビジネスコンテストを実施することで、潜在的な将来の創業者の掘り起しに一定の効果があったと考える。	令和4年度は、対面方式での開催や、内容の検討を行い、創業希望者の掘り起こしを行う。	地域振興課
			事業者向けセミナー開催回数(累計)	-	1	1	1	2	1.0	3	8 回	経営改善や産学連携などの課題に対して、団体・事業者組織から相談を受けて講師を派遣する事業であるが、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、講師派遣依頼は1件となった。	令和3年度は集落営農に関する内容についての講師派遣となり、農業経営に関する基礎知識の周知を図ることができた。	周知を行い、相談があれば可能な範囲で関係機関等に調整を行う。	地域振興課
			商店街空き店舗活用件数(累計)	-	1	1	3	4	1.0	2	5 件	地域事業者育成事業(ビジネスコンテスト)による2件の創業があり、そのうち空き店舗活用として1件の新規出店があった。なお、エリア魅力向上事業は新型コロナウイルス感染症の影響により、実施できておらず、空き店舗の存在の周知等が行っていない。	令和3年度は、1件の空き店舗を活用した創業があったため、創業支援に関して一定の効果があったと考える。	エリア魅力向上事業及び地域事業者育成事業により空き店舗の活用をめざす。	地域振興課
もっと知りたい、ずっと住みたいまち	四條畷の魅力を内外へ発信	シティプロモーションサイトへのアクセス数(件/月)	-	738	2,613	2,412	3,597	1,185.0	3,000	7,000 件	中間目標値を達成した。令和3年度に四條畷市PR大使を創設し、7月に実施した就任記者会見以降、動画や広報誌等を活用したPRにより、アクセスが増加したと考えられる。	広報誌やホームページ、SNS等を運動させた情報を発信することにより、シティプロモーションサイトへのアクセス数を増やすとともに、YouTubeのチャンネル登録者数も令和3年度中に915人増加するなど、プロモーションにつながることができた。	引き続き四條畷市PR大使と連携したまちのプロモーションにより、アクセス向上を図る。	企画広報課	
		サテライトイベント参加者数	-	64	650	300	0	△ 300.0	500	900 人	新型コロナウイルス感染症の影響によりイベントへの参加機会が縮小したため、イベントの実施には至らなかった。	令和3年度は事業未実施。	新型コロナウイルス感染症対策にも配慮しつつ、効果的なPRが可能なイベントを検討する。	企画広報課	
		20歳代から40歳代で「住み続けたい」及び「市内で他に移りたい」と答えた割合	-	-	68.5	67.0	63.3	△ 3.7	63.0	65.0 %	令和3年度市民意識調査における、「設問「四條畷市にこれからも住み続けたいと思いますか。」について、中間目標値を超える数値を達成した。肯定的意見について、20代、40代は前年比で減少し、特に20代は半数を下回る結果となった。逆に30代は、前年比を上回り、7割を超える結果となった。住み続けたいという理由については、西部エリアでは、「昔から住んでいる/生まれ育ったまち/慣れ親しんだ地元」が最も多く、次いで「自然が魅力・豊か」、「閑静/のどかなまち」が多かった。否定的な意見としては、「道路が整備されていない・狭い/坂が多い」、「ほかにも住んでみたいところがある/将来はどこに住んでいるかわからない」等となっている。東部エリアについては、「自然が魅力・豊か」が最も多く、次いで「閑静/のどかなまち」、「環境が良い/快適/落ち着いた/住み心地が良い」等が多かった。否定的な意見としては、「交通が不便/アクセスが悪い/車がないと不便」、「商業施設が少ない/飲食・買物に不便/娯楽施設が少ない」等となっている。	総合戦略及び各計画に基づく各課の施策・事業の成果が一定表れたものと考えられる。	今後も継続的に調査を続け、経過を分析する。肯定的な意見に挙げられた分野を伸ばし、否定的な意見として挙げられた分野については、克服する対策を検討する。	企画広報課	

※CEFRとは…外国語を学習している人の言語運用能力を客観的に示すための国際標準規格。英検やTOEIC、TOEFLなど様々な試験を、統一の基準で示したもの。A1レベル…よく使われる日常的表現と基本的な言い回しが理解し、用いることができる。英検3級相当。